

令和2年度 文京区立小日向台町小学校 授業改善推進プラン

第6学年

	指導上の課題	指導の在り方	授業改善の視点
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字や語句を活用するまでには至らない児童への手立てが必要である。 文章構成や展開が明確になっているかなど、感想や意見を伝え合い、自分や友達の文章のよいところを見付けることに課題がある。 文章を読んでまとめた意見や感想を友達と共有し、自分の考えを広げること課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した漢字を意識して使うように習慣付ける指導が大切である。 感想や意見を伝え合う活動への見通しをもたせることや交流の視点をもてるようにすることが大切である。 互いの意見や感想の違いを明らかにしたり、互いの意見や感想を認め合ったりするための交流の場の工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や家庭学習において、既習漢字や語句を使った熟語や文に触れ、活用能力を伸ばす。日記や普段の書く学習でも既習漢字や語句を使うように指導する。 学習計画を示し、見通しをもって書く活動に取り組めるようにする。文章構成や展開などの視点を明確にすることで、自他の作文のよさを見付けることができるようにする。 小グループを形成し、互いの意見や感想を交流できる場を設ける。そこで明らかになった違いや意見、感想を学級全体で交流することで、児童一人一人の考えを広げられるようにする。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 課題に合わせて資料を効果的に活用する力に課題がある。 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に適した資料を選択・判断し、調べる力やまとめる力を身に付ける指導が大切である。 社会的事象が起こった背景やその後の変化等について、考えさせる指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題に合った資料の活用方法を指導するとともに、その資料を用いて自分が調べたことを工夫して分かりやすくまとめ、発表する授業を展開する。 社会的事象の歴史的背景やその後の変化等を想像し、考えたことをもとに話し合う活動などを積極的に取り入れ、様々な視点を身に付け、多角的に考えられるよう指導をしていく。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算や図形などの基礎学力について課題がある。問題解決にかかる時間に個人差がある。 文章問題の題意を理解し、問題解決することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別学習を進め、個に応じた指導を充実させ、基礎基本の定着を図る指導が大切である。 問題で何を問われているかを文章からしっかりと捉える指導が必要である。また、問題解決の過程を理解できるように指導することが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 少人数指導の中で、児童の理解や習熟の程度、興味・関心などに応じたきめ細かな指導の充実を図り、習熟度に応じて基礎的・応用的な問題に慣れさせ、反復練習をする。ユニットの時間等を活用して、個別指導を充実させていく。 東京ベーシックドリルを活用し、習熟を図る。 問われていること、分かっていることにアンダーラインを引かせる。さらに図や表に数量を整理することで、どのように立式すればよいか明らかにできるよう指導する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活経験を基に予想や仮説を発想することに課題がある。 より妥当な考えをつくりだすことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想させることが大切である。 結果についてグループや全体で話し合いながら共有し、正確な実験結果をもとに考察をさせることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習の内容や生活経験を想起させることで、根拠のある予想や仮説を発想することができるようにする。 結果の見通しをもたせ、結果を予想や仮説と比較・検討すること、他の児童の実験結果と比較・検討することで、多面的に考え、より妥当な考えをつくり出せるようにする。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもつ児童が多いが、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌うことに課題がある。 ・鑑賞に関しては、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて関心をもって取り組む様子が見られるが、曲全体を味わって聴くことに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・呼吸や声の響きに留意した歌い方を試すなど、声の使い方や言葉の発音を意識しながら歌うように働きかける。 ・児童の意識が曲や演奏の部分的なよさなどを見出すことに留まることなく、音楽の流れを感じながら聴くことができるように留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい発声法が身に付くように、簡単な演奏から取り組ませていく。発音や腹式呼吸などについて確認し、力んで声帯を締め付けることがないようにする。歌声を聴き合う活動を取り入れ、友達のよいところを認め合いながら学習に取り組めるようにする。 ・場面ごとによさを感じる活動だけでなく、曲の雰囲気や表情とその移り変わりを感じ取る活動を充実させる。また、個人で考える時間や友達と話し合う時間を十分に確保し、感じ取ったことを言葉で表現する際には多様な表現があることに気付かせる。
図工	<ul style="list-style-type: none"> ・規律を守って授業に参加することができている。また、様々な材料を使って自分が表現したいものを工夫して表現する力が身に付いている。課題に対して一生懸命向き合う気持ちが見られるが、自分の表現したい思いに技能が追いつかず、完成まで計画的に作業を進めることに課題がある児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年に応じた材料や用具を、題材に合わせて適切に扱うことができるようにすることが大切である。また計画的に授業の見通しをもてるよう作業の手順を確認できる環境づくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ制作過程の手順を示し見通しをもたせる。扱う材料や道具に応じた技術を身に付けられるよう、全体に向けてポイントを絞った指導をする。また、個別に教師の言葉かけを行い、全員がスムーズに作業を進められるようにする。授業の流れの見通しがもてる板書や、常に作業手順を視覚的に確認できる掲示物を提示する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に家庭科に前向きに取り組む児童が多いが、学習した知識や技能を使って実際の生活に生かしていこうとする態度は十分とはいえない。 ・授業への取り組み方に、少しずつ個人差が出てきているので、興味や関心をもたせるための工夫が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住、環境、消費、生活文化など、様々な視点を大切にし、自分で実践しようとする態度を育てることを大切にしている。 ・よりよい家庭生活を送るために、衣食住に関する知識や技能の定着を図り、生活をよりよくするための自分なりの課題を意識させることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家庭生活を様々な視点から見つめ直し、一人一人が課題を意識させたり、話し合う機会を作り、問題解決が図れるようにしたりすることで、学習したことを実際の生活にも生かしていこうとする意識や関心を高める。 ・実習では、絵やカード、作品の見本などを使って手順を明確にし、一人一人が主体的に取り組めるように工夫し、技能の定着を図る。技能面で差の出やすい活動は、個別に支援をする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてを明確にもって活動することに課題がある。 ・それぞれの領域での技能ポイントを把握できず、運動の特性（楽しさ）を十分に味わえない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力に適しためあてをもたせ、そのめあてに向けて学び合いながら活動を進めていく指導が必要である。 ・指導者が個々の児童の特性を理解し、練習の時間に技能ポイントや動き方を示し、友達同士の教え合いを活発にさせることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態把握に努め、主体的に運動に取り組むことができる課題を設定する。ペアや小グループでの教え合いの時間を設定したり、運動が苦手な児童への支援をしたりする。 ・学習カードを活用し、めあての振り返りを行い、励ましや助言を教師が記入することで次の学習への課題意識を高めることができるようにする。 ・運動がもつ楽しさを味わえるように、児童の実態に応じた場の設定や用具の工夫ができるようにする。 ・児童同士の教え合いの場を計画的に設け、互いに見合いながら技能を高め合えるようにする。

<p>総合</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の学習課題がはっきりしないまま学習が進んでしまふ児童への手立てが課題である。 調べたり、体験したりしたことを実際の生活に結び付けてまとめたりしながら、行動することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験、見学や調査など、既習の学習を基に、実社会や実生活と結びつけて課題を見いだすことが大切である。 調べ学習では、発表する相手を意識させ、それに適した表現方法を選択してまとめることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習する事柄が児童にふさわしい探究課題であるか検討し、年間指導計画と総合的な学習の時間で学ぶ事柄を相互に関連付け、教科横断的な学習となるよう学習計画を立てる。その際に、他者と協働して課題を解決する学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなど、考えるための技法を活用し、自分の考えをもつことができるよう指導する。 探究的な学習の中で、学んでいることが実社会や実生活でどのように生かされ、生きて働く力になるか考える。社会と積極的に関わっていく態度を養うために、社会参画をしていく意識や意義を共に考える。 誰に何を伝えるのか伝える相手を決め、目的意識をもって課題を追究させる。必要に応じて表現方法を提示し選択させるなど他教科の学習と関連付けて指導する。
<p>外国語</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主体的にコミュニケーションをとる態度に課題がある。 読むことと書くことの技能習得が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 他者に配慮し、距離を確保しながら、主体的にコミュニケーションを図ることができるようにすることが大切である。 本時で扱う会話表現が、日常のどの場面で使うのかが分かるように、授業の工夫をすることが大切である。 音声で十分に慣れ親しみ、簡単な語句等の表現の意味が分かり、ルールを踏まえて書き写せるようにする。 指導者が、個々の児童の読む・書く能力を把握し、実態に合った指導の工夫をすることが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 他教科と関連付けたり、アクティビティを通して、会話表現に対する関心意欲を高めて取り組む。その際に活動の意図を理解した上で取り組めるようにする。学習のめあてや対話のポイント等の振り返りを行い、日常や次時への意欲に活かせるようにする。 対話や発表の機会を取り入れる。また、相手意識や目的意識をもたせ、日常の会話表現に近い状況を設定してアクティビティ等を行う。 簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読み、語順や文の構造を意識して書く活動を取り入れる。
<p>道徳</p>	<ul style="list-style-type: none"> よりよくあろうとする気持ちはあるが、そのためにどうしたらいいのかと自分の考えを深めることや道徳的実践力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの思いや考えを投影できる教材と出会わせることが大切である。 友達の考えに共感したり比較したりすることを通して、自分と違う思いも理解できるようすることが大切である。 教材で考えた事を、自らの生活の中でも生かしていこうとする気持ちを高めていくことが大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 教材の内容が理解できるよう、適切な資料提示や適切な発問に心がける。 自らの思いを自由に発言できる雰囲気づくりや、友達の意見からも素直に学ぼうとする態度の育成に努める。 1時間毎の授業で感じたり学んだりしたことを、毎回ワークシートに書くことで自分の考えや思いを整理する。またファイリングすることで自分の考えや思いの変容に気付けるようにする。